

意見書

平成28年10月

日進市立小中学校適正規模等検討委員会

はじめに

全国的には、少子高齢化の影響から人口の減少傾向が続いていますが、日進市の人口は、市内の宅地開発や区画整理事業により近年増加を続けており、児童生徒数についても、全体としては今後しばらく増加することが予想されます。

このようなことから、本委員会は、平成24年度に作成した「日進市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」に基づき、市内小中学校の適正化について検討・審議を行いました。

このたび、意見集約ができましたので、ここに意見書としてまとめて提出します。

この意見書が、日進市の未来を担う子どもたちのよりよい教育環境の整備・改善に貢献することを願うものであります。

平成28年10月

日進市立小中学校適正規模等検討委員会
委員長 吉崎 一人

目次

I	日進市立小中学校の現状と課題	
(1)	児童生徒数の推移	1
(2)	学校規模（学級数）の推移	1
(3)	小学校の通学区域と行政区	3
II	意見	4
III	日進市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する考え方	5

I 日進市立小中学校の現状と課題

(1) 児童生徒数の推移

平成27年10月に実施した人口推計に基づき、平成28年度から平成37年度までの児童生徒数の推移を予測したところ、本市の児童生徒数については、将来的には少子化の影響などにより減少していくと予想されているものの、日進赤池箕ノ手区画整理事業などの区画整理事業、その他小規模な宅地開発等による人口の増加に伴い、赤池小学校、竹の山小学校などにおいて、今後しばらくは増加することが見込まれる。

また、相野山小学校については、少子化等の影響から児童数が減少することが予想されることから、区画整理事業の動向や児童生徒数の推移について注視していく必要がある。

(2) 学校規模(学級数)の推移

上記の人口推計に基づき、学校規模(学級数)、不足教室の推移について予測したところ、表1、2に示すように、小学校、中学校ともに31学級以上の過大規模校が生じる見込みはないが、6学級以下の過小規模校として、相野山小学校1校が見込まれる。

一方、過大規模には至らないが、南小学校、赤池小学校、日進中学校、日進西中学校、日進東中学校の5校が恒常的に大規模校となると見込まれる。

これらの予測から、適正化に向けた早急な対応は必要ないものの、相野山小学校については、小規模化に伴う諸問題への対応、大規模校5校については、できる限り適正規模に近づけるよう目指すことが必要となっている。

表 1 学校規模の推移（小学校）

		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
西小	児童数	807	817	817	821	815	811	813	812	809	807
	学校規模(学級数)	25	24	25	24	24	25	25	24	23	23
	過不足教室	+1	+2	+1	+2	+2	+1	+1	+2	+3	+3
東小	児童数	634	556	588	610	622	641	645	640	619	621
	学校規模(学級数)	19	18	18	19	18	19	19	19	18	18
	過不足教室	+1	+2	+2	+1	+2	+1	+1	+1	+2	+2
北小	児童数	695	742	755	747	722	706	706	707	719	724
	学校規模(学級数)	22	23	23	24	23	22	21	21	22	23
	過不足教室	+3	+2	+2	+1	+2	+3	+4	+4	+3	+2
南小	児童数	936	972	1003	995	956	940	938	928	926	928
	学校規模(学級数)	27	28	29	29	30	29	28	27	26	26
	過不足教室	+4	+3	+2	+2	+1	+2	+3	+4	+5	+5
相野山小	児童数	296	298	286	264	229	204	191	189	182	186
	学校規模(学級数)	12	11	11	10	9	8	8	7	6	6
	過不足教室	+6	+7	+7	+8	+9	+10	+10	+11	+12	+12
香久山小	児童数	861	814	786	759	765	774	774	774	777	790
	学校規模(学級数)	25	24	24	24	24	23	23	23	23	24
	過不足教室	+9	+10	+10	+10	+10	+11	+11	+11	+11	+10
梨の木小	児童数	486	627	648	687	743	785	791	785	778	776
	学校規模(学級数)	16	20	20	21	23	24	24	22	23	24
	過不足教室	+10	+6	+6	+5	+3	+2	+2	+4	+3	+2
赤池小	児童数	669	699	754	790	824	861	884	901	909	920
	学校規模(学級数)	21	22	24	24	25	26	26	26	26	26
	過不足教室	+7	+6	+4	+4	+3	+2	+2	+2	+2	+2
竹の山小	児童数	482	522	572	597	608	602	620	636	672	688
	学校規模(学級数)	15	17	18	18	18	18	19	19	21	22
	過不足教室	+13	+11	+10	+10	+10	+10	+9	+9	+7	+6
合計	児童数 合計	5,866	6,047	6,209	6,270	6,284	6,324	6,362	6,372	6,391	6,440

凡例

過小	6学級以下	小	7~11学級	適正	12~24学級
大	25~30学級	過大	31学級以上		

表2 学校規模の推移（中学校）

		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
日進中	生徒数	680	667	685	754	858	848	834	780	782	762
	学校規模(学級数)	19	19	20	21	23	23	23	22	22	21
	過不足教室	+5	+5	+4	+3	+1	+1	+1	+2	+2	+3
日進西中	生徒数	893	881	899	896	870	896	898	916	931	931
	学校規模(学級数)	24	24	25	25	24	25	25	25	26	26
	過不足教室	+8	+8	+7	+7	+8	+7	+7	+7	+6	+6
日進東中	生徒数	647	613	626	660	696	681	700	693	732	722
	学校規模(学級数)	18	17	17	18	20	19	19	19	20	20
	過不足教室	+4	+5	+5	+4	+2	+3	+3	+3	+2	+2
日進北中	生徒数	329	360	378	411	446	455	474	496	487	494
	学校規模(学級数)	11	11	11	12	13	14	14	14	14	14
	過不足教室	+5	+5	+5	+4	+3	+2	+2	+2	+2	+2
合計	生徒数	2,549	2,521	2,588	2,721	2,870	2,880	2,906	2,885	2,932	2,909

凡例

過小	6学級以下	小	7～11学級	適正	12～18学級
大	19～30学級	過大	31学級以上		

(3) 小学校通学区域と行政区

小中学校の通学区域については、「日進市小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」において、通学距離の基準を小学校については、3キロ以内、中学校については5キロ以内と定めており、概ね基準内に入っている。

行政区別でみると、小学校の通学区域は、複数の行政区にまたがっているものがほとんどとなっている。

また、行政区が二つ以上の学校の通学区域に分断されている地区として、岩崎区が竹の山小学校と北小学校に、岩藤区が北小学校と相野山小学校に、折戸区が南小学校と梨の木小学校に、藤枝区及び米野木区が東小学校と梨の木小学校に、浅田区が西小学校と赤池小学校にそれぞれ分かれている。

学校運営については、地域とのかかわりも重要な要素となるため、通学区域についても、行政区や自治会等の地域コミュニティとできるだけ整合していることが望ましいが、複数の行政区にまたがっている場合は、十分な連携をとっていく必要がある。

Ⅱ 意見

委員会での意見は、次のとおりである。

- ①特別支援学級の児童数は増加の傾向である。また、通級指導教室の設置や算数での少人数指導の実施には、教室が足りず難しい状況である。
このような現状を踏まえた上で、適正化について考えていただけるとよい。
- ②香久山小学校の児童は、卒業後、香久山区の児童は日進西中学校、岩崎台区の児童は日進北中学校と分かれて進学することになっている。
香久山地区も高齢化しつつあり、児童数が減ってきている感じがする。児童数が少なくなったら、香久山小学校の児童がそろって、1つの中学校、例えば、日進北中学校に行けるとよい。
- ③日進北中学校は、小中併設校という意味では、うまくいっていると聞いているが、同じ小学校の児童は、できれば同じ中学校へ行くほうが良いと思う。
- ④児童数の推計を見ると、相野山小学校では、平成29年度から1年生が1クラスになる。グラフを見ると、相野山小学校は平成37年度まで児童数の増加がなく、ずっと下降線なので何らかの対策が必要である。
- ⑤児童生徒数が増加することは珍しいことで、対応が難しいと思うので引き続き3年ごとの人口推計を行っていただきたい。
- ⑥今回の推計では、過大規模校はないが大規模校はある。「適正規模の定義」に、「『適正規模』とは、望ましい又は理想とする規模のことをいう。必ずしも適正規模でないと直ちに是正しなければならないものではなく、できる限りそれに近づけるように目指す標準としての規模をいう。」とあるので、できる限り適正規模に近づけるという目標を目指すべきである。
- ⑦昨今、特別支援学級の対象者が増えていると聞いている。その分、教室も必要になってくる。
- ⑧教室の数が足りていればよいというものではなく、教育の質が低下するのは望ましくないので適正化が必要である。

- ⑨「適正規模の基本的な考え方」の中に、「児童生徒の通学にかかる負担を考慮し、安全性を確保することが必要」とある。東小学校と梨の木小学校の学区再編に伴い、通学路の変更という状況が発生するので、新しい通学路の状況調査、安全性の確保をしっかりとお願いしたいと思う。

Ⅲ 日進市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する考え方

今回の検討委員会において、平成27年10月に実施した人口推計に基づき市内全13校について検討した結果、喫緊に適正化を図る必要は無いと結論づけた。

しかしながら、小中学校の適正規模及び適正配置の判断については、児童生徒数の適正な把握が重要となるため、人口推計を概ね3年ごとに実施しながら、区画整理事業や宅地開発などによる人口変動の大きい地域の動向に注視する必要がある。

なお、適正化の検討にあたっては、施設の収容能力のみではなく、児童生徒が学びやすい教育環境とは何かを第一に考え、学校規模として望ましい「適正規模」にできる限り近づけるように目指す視点を常に持つことが重要である。

また、より良い教育環境整備の観点から、普通教室のみならず特別支援教室等の学校施設についても考慮が必要である。

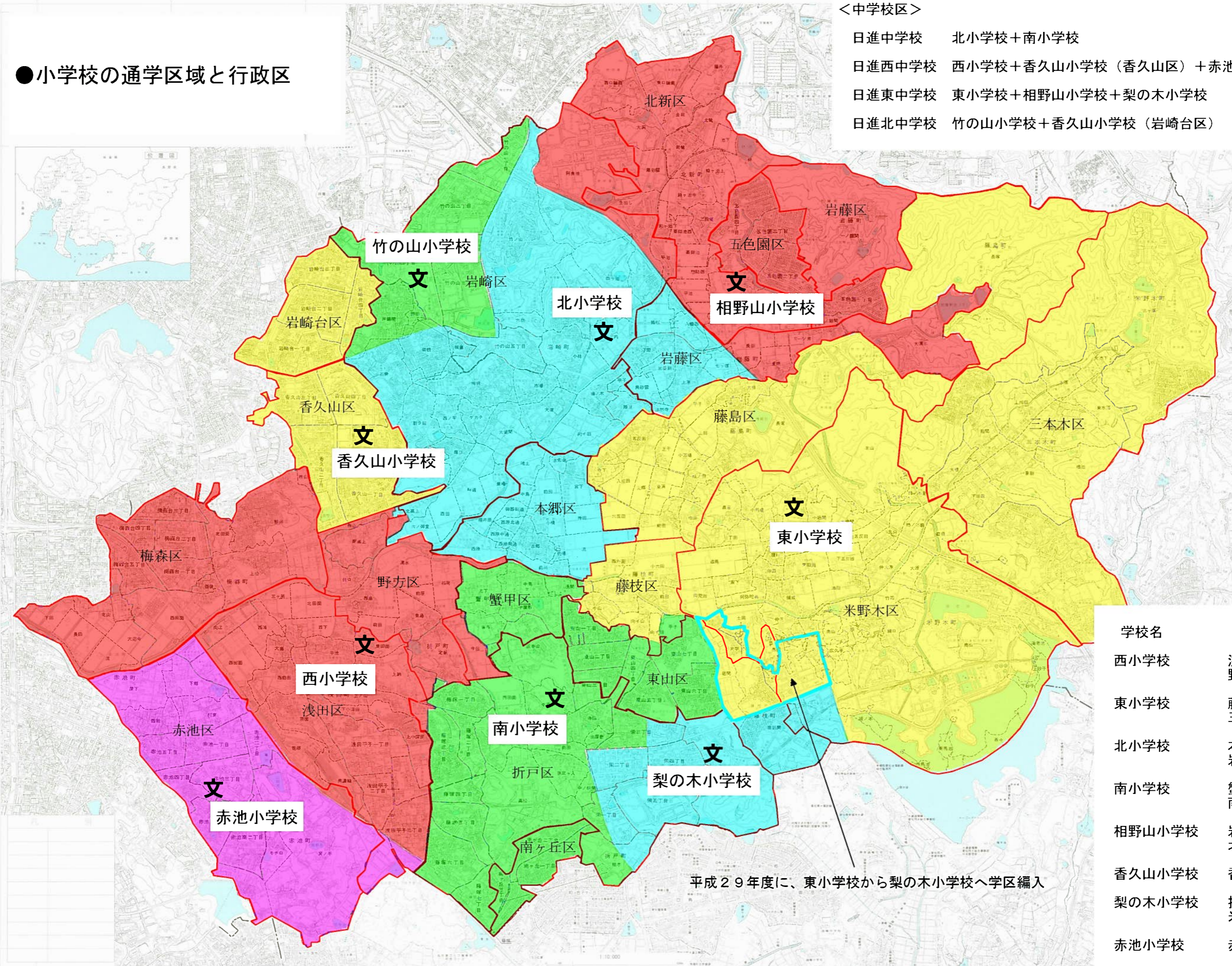
大規模校のうち赤池小学校については、平成37年度以降も児童数の増加が見込まれる。また、将来的には、赤池小学校区をはじめとする西部地区の生徒数増加により、日進西中学校の大規模化が進むことも考えられることから、日進西中学校の適正化に向けた長期的な視点を持ちながら、人口推移の動向を注視していく必要がある。

また、過小規模となることが予測される相野山小学校については、教育の機会均等を確保する観点から、小規模校のメリットを最大限生かした教育充実のための方策や小規模校のデメリットの緩和策を積極的に検討していくことが望まれる。

●小学校の通学区域と行政区

<中学校区>

- 日進中学校 北小学校+南小学校
- 日進西中学校 西小学校+香久山小学校（香久山区）+赤池小学校
- 日進東中学校 東小学校+相野山小学校+梨の木小学校
- 日進北中学校 竹の山小学校+香久山小学校（岩崎台区）



学校名	主な行政区の区域
西小学校	浅田区、梅森区 野方区
東小学校	藤枝区、米野木区 三本木区、藤島区
北小学校	本郷区、岩崎区 岩藤区
南小学校	蟹甲区、折戸区 南ヶ丘区、東山区
相野山小学校	岩崎区、岩藤区 北新区、五色園区
香久山小学校	香久山区、岩崎台区
梨の木小学校	折戸区、藤枝区 米野木区
赤池小学校	赤池区、浅田区
竹の山小学校	岩崎区

平成29年度に、東小学校から梨の木小学校へ学区編入

日進市立小中学校適正規模等検討委員会 委員名簿

役職	氏 名	委嘱区分
委員長	吉崎 一人	学識経験を有する者
委員	徳増 克行	行政区代表者
委員	星野 和三	行政区代表者
委員	福田 隆志	行政区代表者
委員	伊藤 修	行政区代表者
委員	齊藤 由紀子	小中学校PTA代表者
委員	松坂 旬子	小中学校PTA代表者
委員	水野 裕子	小中学校PTA代表者
委員	加藤 義也	小中学校長代表者
副委員長	伊藤 忠	小中学校長代表者
委員	片岡 拓一	公募の市民
委員	黒田 美穂	公募の市民
委員	増井 巧一	その他必要と認める者

日進市立小中学校適正規模等検討委員会開催状況

	開催日	内 容
第1回	平成28年6月24日	(1) 委員の委嘱 (2) 正副委員長の選出 (3) 検討委員会の役割と進め方 (4) 学校規模の推移について (5) 各委員からの意見聴取
	平成28年7月～10月	(1) 意見書(案)作成 (2) 意見書(案)修正 1回目 (3) 意見書(案)修正 2回目
第2回	平成28年10月14日	(1) 意見書の取りまとめ (2) 教育委員会へ意見書